

春風秋霜 10月号

平成 30 年 10 月 1 日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 議会報告

9月10日（月）から12日（水）に行われた9月議会一般質問では、「夢育・地育」にかかわる質問が3人の議員からありました。初倉中学校区で行っている「夢育・地育」の研究について説明すると共に、夢や目標を持っている子供や地域行事に参加している子供の割合が、全国平均を大きく上回っているなどの成果を紹介しました。

「夢育・地育」は、これからの時代を生き抜いていく子供たちに必要な教育です。変化が激しく、グローバル化が急速に進む社会では、夢に向かって努力するたくましさや、様々な人と協調していくためのコミュニケーション力の他、日本人としてのアイデンティティを育てることが求められます。また、人口減少社会における地域の活性化のためには、地域とのつながりを通して、地域に貢献しようとする人材の育成も大切です。

初倉地区で行われている小学生対象の寺子屋事業では、中高生のボランティアの参加が大きな力になっています。社会教育課が行っている「しまだガンバ」でも、中学生のリーダーが様々な体験活動を支えています。また、先月号で紹介したように地域のイベントで活躍している中学生もたくさんいます。このように、若い時の地域とのつながりは、これからの地域の力になると思います。積極的に地域に出て行く子供の背中を押していただきたいと思います。

2 最近の就職活動について

先日、島田市役所への就職を希望する若者をおおるり内で見ました。リクルートスーツで身を包み、緊張感溢れる面持ちで面接試験に臨む姿に、若さと熱意を感じます。

附属島田中学校のPTA新聞を読むと、最近の就活について金原副校長が書いていた記事が目にとまったので紹介します。

最近の就活の共通点は、5～8人ぐらいのグループディスカッションがあることだそうです。ある企業では、「東京駅前に外国人向けのホテルを建設したい。どのようなコンセプトがよいか6人で話し合い、90分後に全員でプレゼンテーションをこなさい。」という課題が出されたそうです。

この課題は、他人との差別化ではなく、共同作業におけるコミュニケーション力や協調性、創造性などが求められています。知識が豊富なだけでは乗り越えられません。就活で求められる資質がこのように変化している事実を認識し、それに合わせた資質の育成を考えなくてはなりません。教材を教えるだけでなく、教材を通してこのような資質を育てるという認識が必要だと思います。

3 学校訪問を通して

教育委員は、9月に市内4校の学校を訪問しました。夏休み明けのお忙しい中でも、きちんとした教室経営を見て、各学校が順調なスタートを切れていることに安心しました。

よく「場を整えると、心が整う」と言われます。どの学校もこの言葉通りの安定した学校の様子を見ることができました。

授業では、教育機器の活用や対話的な授業など、授業改善の意識が伝わってくる授業が増えていると思いました。学習課題の提示やまとめの時間の確保なども、定着が確実に進んでいる

と思います。しかし、どんな授業でも、よりよいものを求めることが大切です。そのためには、常に子供の表れを通して、授業改善を行うことが重要です。

自由に席を離れて相手を求める対話的な授業では、「相手を指定しないと、子供たちは自分と同じレベルの相手を求める」という研究報告があります。また、話し合いの目的が、収束なのか拡散なのかによっても、相手は変わるべきとされています。そのため、自由に相手を求める授業は、子供たちが意欲的に追求しているように見えますが、万能ではないという認識が必要です。タブレットなどの教育機器も万能ではありません。資料の提示などには大きな効果を発揮しますが、板書のように授業の足跡が残らないという欠点もあります。

授業改善は、授業形態が目的ではありません。常に、メリットとデメリットを十分に理解し、子供の学習の充実につながるよう努めなくてはならないと思います。

4 トンボの勘違い

今年はトンボの当たり年のようです。私の自宅周辺では、例年になく多くのトンボが飛んでいます。今年の猛暑がトンボの発生に関係したのかとも思いました。

休日に冬野菜（カリフラワー）の植え付けのため、黒マルチ（黒色のビニル）を畑に設置していると、張り終えた黒マルチに何匹もシオカラトンボが飛んできました。最初は気にしなかったものの、黒マルチすれすれの低空を飛ぶトンボが多いので、よく見ていると産卵行動に似た動きをするトンボがいることに気がつきました。

黒マルチがピンと張られ、太陽の光を反射している様子が、水面のように見えたのかもしれませんが。トンボも勘違いをするのだと思いました。自然の中にはよく見ると楽しい発見があります。

肘かけ椅子

秋田 美八子 教育委員

「子育て」

私には子供が4人います。上の3人は年が近いので、小さいころは本当に大変で毎日「早く大きくなれないかな。」と思いながら子育てをしていました。しかし、上の子たちと少し離れて生まれた4番目の子には、これが最後の子育てだと思ふせいか「早く大きくなれないかな。」という気持ちはわかず、成長を感じる度に寂しさも感じながら、ここまで子育てをしてきたように思います。

こんなふうに、子育てにおいて自分本位な気持ちが出がちなところを自覚し、気を付けているつもりなのですが、つい先日もこんなことがありました。

4番目の子に何か注意していた時の事です。「あなたはどう思っているの？」と聞くと、子供から逆に「お母さんは僕になんて言わせたいの？」と聞かれました。私は、ハッとしました。その時、確かに私の中に「子供にこう言わせたい。」という気持ちがあったのです。子供の気持ちを聞こうとしていたのではなく、自分が安心するために、自分が聞きたい言葉を子供から引き出そうと、誘導尋問していたのです。そこを子供に気付かれ、指摘され、言葉がありませんでした。

「子育ては親育て」とはよく言ったものです。親になって20年以上たちますが、まだまだ自分は子供に育ててもらっている真っ最中だと感じている今日この頃です。